

事業実績報告書

団体名 宝塚温泉まつり実行委員会

1 事業名	「宝塚温泉まつり（第4回）を軸に“自然の恵みと景観”を次世代に継承しコミュニティを発展させる事業」
2 事業の内容（実施日、場所、回数、内容、参加者数などを含めて具体的に記入）	<p>実施 時期 2024年4月28日（日）午前11時～午後3時</p> <p>開催 場所 武庫川河川敷左岸（一部右岸・宝来橋・宝塚大橋）</p> <p>全体参加数 約2000人</p> <p>お祭り 子ども神輿巡行約100人参加（宝塚大橋～旧温泉街～宝来橋）</p> <p>ブース</p> <ul style="list-style-type: none"> ○展示 宝塚旧温泉街写真・兵庫県土木事務所（宝塚大橋耐震化工事展示） ランバスを守る会（ランランバス顔ハメ看板など） ○遊び きょうりゅうつり・わなげ・スーパーボールすくい 子ども駄菓子屋・温泉ガチャポンくじ 他 ○つくる 櫻守の会（丸太切り、木工作） ダリアの会（ダリアアート） ○見る 紙芝居（紙芝居グループちようちよ） ○食べる パン コーヒー・お菓子（niwatoko） 弁当（ZUKEKURA）おこわ・和菓子（芦辺や）他 ○ステージ MC 宝塚市立宝梅中学校 <p>既存事業を拡充（変更）して実施する場合、</p> <p>温泉まつりは、感染症対策でお祭り会場を武庫川河川敷に限定し参加者も1000人以下に限定し開催継続をしてきました。コロナ禍明けの今回は市政70周年を祝い、地元の子どもたち約70人が担ぐお御輿先頭に、神楽や和楽器演奏者など約150人が華やかに宝塚市の中心市街地、武庫川右岸、左岸、宝来橋、宝塚大橋などを練り歩きました。</p>
3 市制70周年をお祝いした内容	<p>70年前、1954年良元村と宝塚町が合併し宝塚市が誕生しました。「市制誕生」を祝い、温泉街では布団太鼓の山車を先頭に“子ども御輿”が練り歩きました。誕生から16年後、1970年の大阪万博の年、宿泊客は約133万人。宝塚温泉は最盛期を迎えます。温泉まつりも歌劇と共に市民に愛されましたが、平成バブルが弾け、阪神淡路大震災もあり、温泉街はマンション街に変貌。市街地の温浴施設は2024年に3軒になりました。被災した公民館に残された“子ども御輿”は30年間、地元自治会が保存を続けました。</p> <p>宝塚温泉まつりが再興し3年。コロナ禍が明けた、市制70周年の今年、地元自治会はこの“子ども御輿”を修復し復活させました。“子ども御輿”を地元に住む小中高大の70人の若物たちが担ぎ、70年の“時空を超えて”旧温泉街に子どもたちの声が街に響きました。いくつもの奇跡と善意がつながり、ハレの日を迎えました。</p> <p>市民たちは70年の歩みを振り返り、我が街の魅力を再確認し、次世代の若者は、ふるさとへの愛着や誇りを感じる、“未来につなぐ機会”となりました。</p> <p>「宝塚大橋」の耐震化工事も4月に終わり、兵庫県土木事務所、山崎晴恵宝塚市長と、“子ども御輿”を担ぐ若き市民たちが、共に橋を渡りました。「協働のまちづくり」の70年の歴史的到達点と言えます。</p>

4 事業の効果・成果

- ① 次世代を担う子ども対象に宝塚の歴史・自然の恵み（温泉）等への伝統が継承。
- ② 地域コミュニティの再生—宝塚温泉を知る住民と震災後転居した住民の交流融和
- ③ 市の「第6次総計」「一まちづくり計画マンションコミュニティ」づくりを推進。
- ④ 宝塚市の都市計画課推進の武庫川両河川敷の市民活用官民活用を加速。
- ⑤ 宝塚大橋のリニューアル工事完成。兵庫県が市民説明ブースを開設し官民で祝う。
- ⑥ ランランバスを守る市民グループが参加するなど新たなブース出店の輪が広がる。
- ⑦ 地元自治会（地域住民）、旅館経営者（ナチュラルスパ等）のつながりの再生。

5 実施した安全対策

- ① 河川転落防止のため、地元自治会中心（ボランティア）による見守り
- ② 神輿の巡行（宝塚大橋、宝来橋、旧温泉街）コースは宝塚警察へ道路使用許可を申請し、プロの警備員を5人雇用し、子どもたちの安全、見物客の安全を見守る
- ③ 過去お祭り3回は屋外イベントとして、感染書のクラスター対策として、参加者全員に名前を記入していただき、ブース飲食は自粛してきました。今年から解禁。